

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成23年4月8日)

述而第七

21 子曰く、しいわ三さん人にん行おこなえかなばら必わずし我あがそ師ぜん有もり。其の善えなるら者こをれ択しびたてが之に従そい、其の不ふ善ぜんなるも者のはこ之れをあら改たむ。

孔子が言うには、何かことを行う時に人が沢山集まれば、その中に必ず自分の手本となるような人物がいるものだ。三人の三は、三人という意味ではなくて、大勢の人という意味です。

その中で、良い行いをしているなと思う人を見つけたら、その行動を見習い、悪い行いをしているなと思う者を見たら、自分はしないように気をつける。

今の時代に当てはめて考えます。今回の大震災で、菅さんはどうも後藤新平を頭に置いたようです。後藤新平は関東大震災の時に帝都復興院総裁として権限を一手に集中させて、新しい東京市を作るべく、まるっきり別のグランドデザインを描いて必要なお金を集めました。安田財閥の祖である安田善次郎と話をし、当時の国家予算の半分くらいのお金をを出してもらおうという約束を取り付けていたところ、彼が亡くなってしまったので、国の予算しか使えませんでした。今の東京の元になるグランドデザインを描いて実行していたわけです。権力を集中して、それなりのものを造った。大風呂敷と言われたけれども政治家としてカリスマ性を発揮した後藤新平が、菅さんの頭にあるようです。

菅さんが今回の大震災を処理しようと考えた時に、大勢の中から必ず手本となる人物がいるはずだが、誰もいない。おかしいということで、直ちに自分が卒業した母校の先生方の名簿を探してくれるように奥さんに連絡を取ったそうですので、自分の身の周りにはいる参与なる人たちを当てにしていなかったのでしょうか。菅さんがやっていることをみると、駄目だと思うことを真似して、良いことだと思ふことはなかなか見習えない。論語のこの文章とは逆のことをしているように感じます。

たまたま時代が、総理大臣を引きずり降ろそうという時代ではありませんから、とりあえず首が繋がっているようですけれども、菅降ろしの声が周りから上がっているなかで、よくぞ総理大臣の職を辞さないものだなと不思議に感じます。

22 子曰く、しいわ天てん徳とくを予われに生しょうぜり。桓かん魑たい其それ予われを如何いかにせん。

孔子が言うには、天が私に仁徳の能力を授けられた。私は天の期待に応えるべく一所懸命努力をして現在に至っている。その私を桓魋が暗殺しようと画策しているようだけれども、桓魋ごときが私を殺せるわけがない。

これは孔子が56歳の頃の話です。桓魋とは孔子の弟子の司馬牛の兄で、宋の国の武官をしている人物です。かなりわがまま放題だったようです。孔子が衛から宋に行く途中で襲われたわけですが、「予を如何にせん」(桓魋ごときが私を襲っても、私を殺すことは出来ない)と言って、お弟子さんたちを安心させているわけです。この文章は衛から宋に行く途中の大木の下で、お弟子さんたちに向けて講義をしている一コマのようです。

渋沢栄一さんも解説の中で、学びに学んで実践を積み重ねた人間はそういう自信が出て当たり前だ。私も一所懸命努力したから、そう簡単に殺されるわけがないということで、自分の自慢話をしています。例えば、26歳の時に新撰組の壬生浪士3人に襲われたけれども、腕に覚えがあったから撃退できた。新撰組3人くらいで私を殺すことなど出来ないと言っています。明治になってからも、東京市に水道を引こうという計画の際、まずは外国の水道技術をもって外国製の水道管を使い、知識を啓発してゆくゆくは国産のものを使おうとする渋沢さんの考えに、国内の業社が賄賂を貰っているのだらうと誤解して、渋沢栄一さんを暴漢2人に襲撃させました。ここでも渋沢栄一さんは、自分は私利私欲を貪らず、世の為・人の為に尽くしているのだから、そう簡単に殺されるはずがないと言っています。

翻って現代、こういうことを言える人がいるのかなと思います。菅さんが外に出て歩いたら、石を投げつけられるところが沢山あるのではないかという気がします。こういうことを言えるのは、天皇陛下と皇后陛下くらいではないかと思います。お二人を見習って、皇族の方たちが被災者をお見舞いしていくわけですから、日本の精神的な支柱は政治家ではなくやはり皇族方、特に天皇・皇后両陛下なのだろうなと感じます。天皇・皇后両陛下は計画停電が始まってから、自主的に計画停電を続けておられるそうです。大変なことだと思います。

23 子曰く、二三子、我を以て隠すと為すか。吾爾に隠すこと無し。吾行おうとして二三子に与さざる者無し。是れ丘なり。

孔子が弟子たちに呼びかけています。

お前たちは、私が何か隠していると思っているのか。私は君たちに何も隠してはいない。

私の立ち居振る舞いを見て覚えなさい。真剣に物事を追及していけば、かならず私の行動を見てはっと悟るところがあるはずだ。私の行動を見てはっとしないようであれば、まだまだ勉強が足りないのだ。このやり方が孔子流である。

孔子が言葉で説く道をなかなか悟れないので、孔子が隠して教えないのだろうと弟子たちが勘ぐっているのに対して、孔子が、「私の行いを真剣に見つめていれば、どこかではっと悟るものがあるはずだ。私の教え方はこういうものだ」と言っています。

別の論語で「民は之に由らしむべし。之に知らしむべからず」という文章があります。国民にいくら知らしめようと努力しても、なかなか理解してもらえない。しかし私の後ろ姿や行動を見て、理屈は分からないけれどもあの人のいうことなら信用してついて行こうではないか・・・という信頼関係も、ここ（孔子流）から生まれてくると感じます。

現代で考えますと、政府が発表しているものはどうでしょう。金子みすずの詩「こだまでしょうか」がテレビですっと流れていますが、それをもじって、面白い文章が官邸で流行っているようです。

「大丈夫？」っていうと、「大丈夫」っていう。

「漏れてない？」っていうと、「漏れてない」っていう。

「安全？」っていうと、「安全」っていう。

そうして、後で怖くなって「でも、ほんとはちょっと漏れてる？」っていうと、

「ちょっと漏れてる」っていう。

こだまでしょうか？　いいえ、枝野です。

かなり酷い状況になっているのではないかと思います。政府が一所懸命やればやるほど、日本を悪くしている。力を発揮できるリーダーを作らなければならないと思います。今の菅さんや枝野さんは、リーダーシップを発揮できていません。特に原発から 20 キロ圏内、30 キロ圏内という判断は、相当怖い判断をしていると思います。自分たちが言った言葉を何とか踏襲しようとして変えないようにしているから、あちこちに綻びが出ています。

一段落ついてからとあって、皆、菅さんへの攻撃を控えています。いずれにしても菅さんがトップでいたことによって、日本は相当迷惑を被っていると思っています。仮に小沢さんだったらどうか、前原さんだったらどうか・・・民主党の中でもそれぞれの首相になり得る人間はいます。けれども実際ポストにつかないと、力が発揮できるかどうか分かりません。仮に自民党の中で総理大臣になる人が出てきていけば、又、違った動きをして

いるはずで。

ただ、大きな世の中の流れとして、民主党は日本の国の方向を悪い方へ導く役割で生まれてきた政党であると私は思っています。はっきりしていることは、政治がその本来持っている機能を発揮していないということです。政治家が政治家としてやるべきことをきちんとやっていない。例えば義援金が沢山集まっていますが、まだ配られていませんね。政治家がきちんと決断をすればスムーズにいくものは、前回お話ししましたように私が実際に関与しているなかでも、かなりあります。トップのところはまともに機能していないのだと思います。トップを誰に代えればよいか私にも分かりませんが、トップが代わってないと、まともに機能させられる人かどうか分からない。しかし、代えなければならないということだけは、はっきりしています。今、トップがまともに機能していないために停滞しているものが、相当あります。